

▶ 出勤点呼時アドバイス

運転保安度向上のため、出勤点呼時に乗務員に対して、ワンポイントアドバイスを行うことで注意喚起を促しています。

従来の点呼方法を改善し、具体的に注意箇所を指摘し、言葉を交わしコミュニケーションを図っています。さらに安全意識・営業意識の高揚を目的とした“指差し呼称”を監督者と乗務員が一緒に行うことで、より一層の安全意識を高めています。

また、運転指令者は、列車無線を使って天候などそのときの状況にあったアドバイスも行っています。



出勤点呼時アドバイス

技術の継承

▶ 工務部門

軌道を保守する技術力を維持するために、平成16年より課内に技術継承プログラム委員会を立ち上げ、策定した年間計画に基づいて実務研修(年2回)や机上研修(年4回)を実施しています。

実務研修では、経験豊富な社員が中心となって若手社員に訓練を行い、保線作業の要領や防災時の対応などの技術継承に努めています。なお、平成23年度実務研修では『防災訓練(踏切内レール折損時応急復旧)』・『実地訓練(分岐器組立)』を実施しました。

机上研修では、軌道に関するあらゆるテーマを取り上げ、研究発表や議論を通して、知識の習熟に努めています。

▶ 電気部門

電気部門では、電気技術に対する理解を深めるための教習書や、安全点検の確実な実行と一定レベルの技術を確保するための標準作業手順表を活用しています。

また、作業者の安全確保や障害発生時の迅速な復旧を目指すため、主に若年者を対象に「障害復旧訓練」を実施しています。

毎年開催される「業務研究発表会」では、さまざまな課題に対する対策や改善を検討し議論することで、技術力の向上に努めています。

▶ 車両部門

車両部門では、作業手順書などを作成して技能・技術力の保持に努めていますが、ベテラン社員の大量定年退職による技能の断絶を避けるために、OJTを活用した技術の継承を継続するとともに、実車・教材用車両を利用した故障対応教育など、業務研修会・各種訓練を年間計画に基づき実施しています。

また、新任監督者を対象に指導者としての研修会を開催し、技能継承により作業が「安全・確実」に行えるようにしています。

さらに、過去の重大事故の教訓を継承するために、重大事故年表を作成し安全マネジメント教育の中で周知徹底しています。

KYT(危険予知トレーニング)

危険予知トレーニングを、頭文字である危険の「K」、予知の「Y」、トレーニングの「T」としてKYTと呼びます。

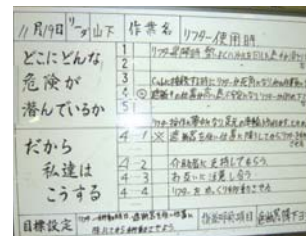
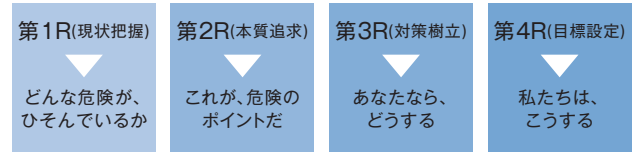
KYTは、作業に従事する作業者が数名のチームとなり、事故や災害を未然に防ぐことを目的に、その作業に潜む危険を予想し、指摘しあう訓練のことです。鉄道部門では始業時などにチームごとにKYTを行い、事故防止に努めています。

トレーニングの手順として「4ラウンド法」を採用しており、チームが4つのプロセスを通して決定した「危険のポイント」や「チーム行動目標」をチーム全員で「指差し呼称(唱和)」しています。

指差し呼称(唱和)とは、作業の各要所で一人ひとりが確認すべき作業動作や物に対して、腕を伸ばして指差し、しっかりした声を出して呼称し、安全性・正確性を確認する動作です。

平成6年、(財)鉄道総合研究所が行った指差し呼称の効果検定実験結果によると、“何もしない場合”に比べて“指差し呼称する場合”には作業の誤りの発生率が6分の1以下になるということが示されています。

4ラウンド法



KYTボード



指差し呼称

平成24年度 安全重点施策の目標

安全管理体制の強化

経営トップ、安全統括管理者が現場を巡視し、積極的に社員と意見交換を行い、風通しの良い職場風土を醸成します。

昨年に引き続き、津波来襲を想定した地震訓練など、各種訓練を実施します。また、安全マネジメント体制をさらに強化するために、従来実施してきた内部監査に加え、当該部において自らを監査する部内監査を新たに実施します。

「質の高い安全」を目指すために、「ヒヤリ・事故の芽活動」による事故の芽の早期除去に努めます。